

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

※ ニューメディアの登場は、※ 福音なのか崩壊の序章なのか。このような対立を私たちは頻繁に目にしてきたし、その問いを前に、どちらの立場を選択するかを問われてきた。だが時間の経過と共に、※ ネガティブな言説とポジティブな言説は薄れ、ネイティブ（日常的に語られる言説）のみが残る。その間に広がる流言の多くは、後の時代から見ると非合理であると映ることもしばしばだが、そうした言説の反復が、常に「メディアが身体観を変えてしまう」「精神や身体に悪影響を及ぼす」という不安を踏まえて発話されている点は^A示唆的だ。

そもそもメディアは人々の欲望を叶えるため、社会に登場し、定着していく。単にもともとあった欲望を満たすためだけではなく、新たな欲望を植え付け、発展させていく。例えばそろばんや電卓、コンピュータなどを使うことによって、人はより簡便で、高度な計算能力を手に入れた。文字や数字を獲得し、情報として記録するために紙や電子媒体を獲得していくことで、自らの身体的限界を超えて、膨大な情報を蓄積し、共有することを可能にした。

私たちは、長文を記憶する必要もなく、いつでも膨大な情報へとアクセスでき、メディアを経由して想起することができる。

つまり^{ひゆ}比喩的に言えば^①私たちの身体は、メディアを通じて新しい身体能力を獲得していくかのようなようだ。しかしそれは言うまでもなく、私

ちの生物的身体が進化、あるいは退化していくことではない。自分が可能な振る舞いを変容させ、他人の振る舞いに対する[※]予期を変容させ、社会制度を変容させるといった形で、メディアは社会的身体のあるり方を解体／構築していくのだ。

社会的身体とは、生物としての身体そのものではなく、社会的に構築された、個人の身体に対するイメージのことだ。人は、道具を使い、環境に適応すると同時に、環境そのものを変容させる。人の生物学的身体は、そう簡単には変えることができないが、メディアを通じて形作られる社会的身体は、わずか短い期間の間に、その姿をがらりと変えていく。

生物学的身体が「もの」としての身体であるなら、社会的身体は「言葉」としての身体であり、それはちょうど[※]セックスとジェンダーとの関係のように文化的な差異や変化を伴う、学習された観念のことである。そしてそれはコミュニケーションによって作られる、予期の織物のような存在である。

私たちがあるコミュニケーション環境に適応するためには、様々な作法や慣習を身につけたり、いくつかのメディアを、特定の仕方を使いこなせるようになることを求められる。かつての日本であれば、ある階層には書道の能力、そろばんの能力、武道の能力、和装を着こなす能力が^B自明であつた（として語られる）。しかし、現代の一般企業が「社会人として」求める能力は、ブラインドタッチ、ネクタイの締め方、電話応対、名刺交換の方法、ワードにエクセルの操作、携帯電話の電源を常に

入れていることであって、責任を取るために腹を切るのではない。

社会は人々に、^②メディアを通じた特定の振る舞い方が学習されていくことを期待している。同時に人々は、時代や状況に応じて、その身体を社会的に組み替えていく必要性を知っている。

多くの人にとってメディアを獲得することは、新しく身体能力を外部化し、拡張することでもある。脳にプラグをさして、記憶容量を増やすことこそまだ直接的な形ではできないが、それに類した行動はすでに行われている。自分の記憶容量が足りなければ、自分が憶えきれなければ、人にうまく伝えられないと思えば、メモをし、レコーダーやカメラをまわし、パソコンやケータイなどに保存し、コピーしたデータを渡してあげればいい。そうした振る舞いが一般化するにつれ、社会は人々に「拡張された能力」が存在することを前提として組み込んでいく。

いまでは、街には[※]QRコードが溢れ、レジカウOUNTERの前でケータイをかざすことを薦められる。具体的な待ち合わせ場所を決めずとも、連絡を取り合いながら落ち合えるという期待が生まれ、時間になっても電話が繋がらない相手はマナー違反であると思われる。

このように、ひとたび特定のメディアが社会的身体化されると、その利用はすでに社会的に埋め込まれたヤクソクになる。私たちはそのメディアによって拡張された能力を、簡単には手放すことはできない。新しい身体に何か「問題」が起こったとしても、その身体をダウングレードして裸の状態になるのではなく、さらに[※]アップデートすること、

あるいは何か^①代替のメディアを構築することによって対処されていくことが望まれる。

「昔に帰れ」といった説教が、感情的[※]メンテナンスの役には立っても、システム構築の代案としては常に無効だったように、一度埋め込まれた機能を手放すことは実に難しい。個人がそれに抗うからではない。すでに社会が、そのような身体を持った人々の存在を前提として進み始めているからだ。いまや、すべての身体は、象徴的な義体なのである。

メディアが変化させるのは、人々の具体的な行為だけではない。一般的な「身体」の対概念が、「魂」「精神」「神経」「脳」といった具合に移り変わってきたように、メディアは世界観・社会観のあり方をその都度更新していく。^④社会的身体は、社会的に構築された身体の機能であると同時に、そのイメージそれ自体だ。そして、そのイメージをめぐる、

^⑤人々はいつまでも論争を繰り返していくのである。

（荻上テキ『社会的な身体』による 一部省略した部分がある）

(注)

※ニューメディア：新しく普及した情報伝達のための媒体。

※福音：よろこばしい知らせ。

※ネガティブな言説とポジティブな言説：否定的な主張と肯定的な主張。

※予期：あらかじめ期待すること。

※セックスとジェンダー：生物学的性と社会的・文化的なありようとしての性。

※QRコード：情報を伝えるための二次元コード。バーコードに比べて情報量が多い。

※ダウングレード：かつての古い状態に戻すこと。

※アップデート：小規模な改善や修正をしたり、機能を追加したりすること。

※メンテナンス：良好な状態に保つための保守管理。